

福島県
知事賞「鳴き砂」で
福島の海の魅力を取り戻す

福島県いわき市立中央台北中学校

すずき ゆいと
鈴木 結人

私が海に初めて行ったのは、小学5年生の時のことだ。初めて直接触れた海水は思ったより冷たく、とても気持ちよかった。

何より砂浜を踏んだときの感触が心地よく、踏むたびに「キュッキュッ」と鳴き声のような音がするのも楽しかった。この時私は母に、「近くにあって、こんなに楽しい場所なのに、なぜ今まで遊びに来なかったの。」と聞いた。母は答えた。「あなたが生まれた翌年、東日本大震災があったの。その時、お父さんが津波にのまれたのよ。お父さんは奇跡的に生還したけれど、その時の体験がトラウマになって、それ以来、なかなか海に行くタイミングがつかめなかったの。」と。

私は驚いた。海に行っていなかったのは、原子力発電所の事故による放射能の影響などもあるのかなと思っていたからだ。さらに母に、東日本大震災より前の海はどうだったのかと聞くと、母は、以前のいわきの海には全国から多くのサーファーが集まり、また海水浴客も非常に多く、「東北の湘南」とも言われていたという。しかし風評被害の影響もあるのだろうか。現在は以前ほどの賑わいは無い。

そこで私は、福島の海岸が、以前のような賑わいを取り戻すため、私が身をもって体験した「鳴き砂」を生かせないかと考えた。そもそも福島県は、四季の変化を体験しやすい県だ。春は三春町のしだれ桜、夏は浜通りの海、秋は只見線沿線の紅葉、冬は素敵な雪景色が見られる。こう

した福島県の素晴らしい環境をPRして行く中に、浜通りの「鳴き砂」の素晴らしさも付け加えていくべきだと思う。

しかし母によると、この鳴き砂も、東日本大震災以前はもっとよく鳴いたという。そして、鳴き砂はきれいな海岸でないとよく鳴かないという。先日海に行った時、そういう目で改めて海岸を見た。すると、所々にごみが落ちていた。気付くと、私は走り出し、いくつかのごみを拾っていた。ペットボトルやレジ袋だ。こうしたごみが砂を汚し、いわきの美しい砂浜の魅力を奪っているのかと思うと、腹立たしく感じた。

その後鳴き砂について調べてみると、いわきの鳴き砂は有名で、令和4年には、全国鳴き砂サミットも開かれていた。また、NPOも結成され、豊間海岸を初めとするいわきの鳴き砂を研究している。ただ、せっかく鳴き砂の素晴らしさをPRしたくても、海岸にごみが落ちていたのでは説得力がない。私も海岸に足を運んだ時はごみを拾っているが、きっと誰かがごみを拾っていれば、それを見た誰かのごみを拾う。日本人は同調圧力が強いと聞いたことがあるが、これを逆手にとって、海岸でごみを拾うという動きをもっと広めたい。美しい福島の海岸と全国一の鳴き砂を実現し、広くPRしたい。以前のように多くのサーファーや観光客が訪れ、訪れた人たちもごみを拾う。海で遊び、同時に海の美しい環境を保つ。このよい循環を、福島からスタートさせたい。まだ漠然としているが、これが今の私の夢だ。